

安全・良品質な丹波ひかみ米の病害虫防除はこれで決まり!

1. 生育ステージと病害虫防除作業 (5月20日植コシヒカリの場合)

田植3日前～当日	7月20日まで	7月30日頃	8月7日頃
栽培やむ草はひがい	畦の草刈り	出穂前防除	カメムシ防除
青葉病にまく事で、本田に発病・発生する病害虫を防除することができます。出来るだけ田植当日にまいて下さい。	出穂2週間前までに裏葉周辺の雑草を刈っておき、カメムシ・ウンカ類の巣を作らないことが大切です。(出穂後以降は行うと防除効果にならないります。)	出穂前に無いいち病はもちろん、紋枯病・カメムシ・ウンカ類の防除が一層にできる総合殺虫殺菌剤を散布して下さい。(青葉病防除は仕上げにもう一回します。)	品質以下の第一の要因はカメムシ類の被害です。必ず仕上げ防除を行いましょう。良品質米の決め手はカメムシ防除が決まり!

★斑点米の原因となるカメムシ



裏葉周辺の雑草は出穂2週間前までに刈りましょう。

2. 病害虫防除基準

水田用の除草剤および水田で使用する粒剤は、散布後7日間は落水やかけ流しをしないように注意事項が記載されています。農薬ラベルの注意事項を確認し、しっかりと守りましょう。(10kgあたり)

病害虫名	薬剤名	散布量	散布時期	薬剤の特長と散布上の注意
紋枯病・いちじら病・イネミズゾウムシ・ウンカ類	エバーグローフォルテ殺菌剤	50g／1箱	播種時（覆土前）～移植当日	1種類の殺虫成分と2種類の殺菌成分で、いちじら病、紋枯病、害虫から一石二鳥です。
いちじら病・イネミズゾウムシ・ニカラメイチュウ	Dr.オリゼブリンス粒剤10	50g／1箱	播種期～移植当日	本田での効果は7月中旬頃まで持続するので効果的。散布後は軽く落水して、毒剤を落ちさせます。
いちじら病	オリゼメートキロ粒剤	1kg	初穂の7～10日前 (出穂40日前)	予防剤として効果を発揮するため、干子し前に散布する。散布後4～5日間は満水状態を保つ。
カメムシ類・ウンカ類	オリゼメートパック	20パック		
カメムシ類・ウンカ類	ビームバシボン粒剤DL	4kg	出穂5日前～播前	いちじら病はもちろん出穂前に必要な病害虫を一度に効能できる総合殺虫殺菌剤。(収穫の14日前以降は使用しない。)
カメムシ類・ウンカ類	スタークル粒剤	3kg	出穂後7日頃	持続性に優れます。
	スタークル粒剤DL	3kg		速効性に優れます。
	スタークル豆つぶ	250g		スタークルの「働きやすい」豆つぶタイプ。持続性に優れ、裏葉周辺への散布深さも効果最大。
	スタークル液剤10 (1000ml水噸)	60～150L (1000ml水噸)		動力噴霧機での散布が可能です。

●特別栽培米夢たんぱ

水田用の除草剤および水田で使用する粒剤は、散布後7日間は落水やかけ流しをしないように注意事項が記載されています。農薬ラベルの注意事項を確認し、しっかりと守りましょう。(10kgあたり)

病害虫名	薬剤名	散布量	散布時期	薬剤の特長と散布上の注意
カメムシ類・ウンカ類	イネミズゾウムシ・いちじら病・ウンカ類	Dr.オリゼ スタークル粒剤	50g／1箱	播種期～移植当日
	スタークル粒剤	3kg	出穂後7日頃	持続性に優れます。
	スタークル粒剤DL	3kg		速効性に優れます。
	スタークル豆つぶ	250g		スタークルの「働きやすい」豆つぶタイプ。持続性に優れ、裏葉周辺への散布深さも効果最大。
	スタークル液剤10 (1000ml水噸)	60～150L (1000ml水噸)		動力噴霧機での散布が可能です。

収穫期のめやす



コシヒカリの収穫期のめやすは穗揃い後、35日頃です。

充実した穂数の85%程度が黄色くなった頃が適期です。

収穫が遅れると、茶米や胴割米などが発生しやすくなります。

畦畔から2mほど入ったところの穂を基準に判断して下さい。(畦際は黄化がバラツキます)



○乾燥・調製・出荷

①仕上げ水分は14.5%を守って下さい！

過乾燥米は胴割れを起こしやすく、流通業者から取引を敬遠されます。また、高水分米は商品としての価値が下がるため精算単価に影響します。

②量目は皆掛重量30.5kgに統一しましょう！

JAへ出荷いただく米は丹波ひかみブランドとして販売いたしますので、丹波ひかみ米専用袋（コシヒカリの場合はコシヒカリ専用袋）を使用し、荷造り、量目（皆掛重量30.5kg）はしっかりと確認してください。

③雑草の種子や石の混入がないようお願いします。

*JAのカントリーエレベーター・ライスセンターへ収穫された穀を持ち込んでいただきますと、乾燥・調製・袋詰・出荷等の手間が必要ありませんので省力化とコストダウンになり、大変便利です。